

入門編

言語系のレポートは

どう書くか？



@ 附属図書館
ラーニングコーモンズ

2012.12.7(金)

😊 はじめて言語系のレポートを書こう
と思っている

😊 大学の共通教育の言語系講義でレ
ポートを書こうと思っている

初心者の**あなたにこの話**
を聞いてもらいたい！！！！



だれにこの話を聞いてもら
いたいかというと…

今日の話の流れは...

😊 言語系のレポートってどういうもん？

レポートって？分類？理系、文系のレポートの違い？

どうやって上手に書けるの？



課題あり？課題ない？

上手くかけるにはなんかコツないの？



だれにかく？かたちも大事？考察と事実が違う？



レポートって：

→感想文、日記、小説とは違う！

レポートに書くべきものは、事実と、根拠を示した意見だけであって、主観的な感想は排除しなければならない。

→質問です！

学生が書くレポートはどんなどんなもの？



言語系のレポートってどういうもん？

まず、レポートって？分類？を考えてみよう！

学生が書かされるレポートは

学習レポート

- 講義で教えるべき内容を課題として、それについて自習させることを目的とするもの。

研究レポート

- 教師が与えた課題について学生が主体的に調査・研究し、多少とも独自の見解に到達することを期待するものである。

理系？文系？言語系？のレポートは

■ 理科系

実験を報告する。

文科系

考えを客観的なものでいう。

読書、文献検索、实地調査、アンケートなどの方法によって事実を集め、それにもとづいて自分の考えをまとめてかくものである。

言語系

言語のある現象、変化等について（主題）を展開し、裏づけるための材料を集めて、それに基づいて自分が知りえたことを報告するものである。

言語系のレポートとは

- 言語系の研究でよく扱われる3つの範囲

- ① 音声・音韻

- ② 語彙

- ③ 文法

- 課題あり：「日本語の音声・音韻」について調べるなど

- 課題がない！

- 読んだものについてまとめて報告する。

- 気になってたことについて調べて報告する。

上手に書けるには

- ① 話題を選ぶ
- ② レポートの主題を決める
- ③ 材料を集める



どうやって上手に書けるの？

話題をえらぶ

- レポートにはだいたい課題がすでにある。（課題っぽい課題もあり！）

→例：日本語の音声・音韻の講義で、「日本語の音声・音韻」について書くと...

→まず、考えることが大事！

自分はその課題に包含されるいろいろな問題の中で何をとりあげてレポートの話題とするかを考える。

その話題が自分にとって魅力的か、積極的に興味を感じるか、それについてなんかの考え、意見があるか。自分の予備知識は？

「こんにちのはの「は」は、なぜ「わ」ではないのか」

「留学生の日本語の発音」

「日本語と英語の音声の比較」など...

レポートの主題を決める

- 話題を決めたら、次にその話題についてどういうことを調べて、**どういうふうにまとめようか、どんな結論にもっていこうか、どんな意見を主張しようかと考えをめぐらす。** ← 主題を構想。
- 主題とは：自分の書くレポートのなかである話題についてあることを結論しよう、主張しよう、つたえようとするものである。
- 思いつくままのメモ。 ← 予備知識が出発点となる。
立ち読み程度のおおざっぱな予備知識を背景にする。

材料を集める

- **自分の頭の中から引き出す！**

眠っている記憶を呼び起こし、いくつかの記憶を結びつける。

- **実施調査**

自身でものにあたり、ことにあたって調べる。観察、実験などの手段によって入手する。

- **図書、雑誌、新聞などの文献から引用する。テレビ、ラジオのニュースその他を見たり聞いたりするのもOK！**

→ **重要なのは、資料をしっかりと読むこと！**

→ **読んだ感想をきちんとまとめる。**

課題あり

- 課題を与えられた場合、その課題について調べる
こと!

→ 言葉と文化について

→ 言葉の性差 → 名作漫画でわかる言葉の性差

- どこで調べる？ 辞書、本、論文、ネット、調査
(アンケートなど)

- 図書館を活用する!

データベース (CINIIなど)、TA等 (箕面外国語図書館にも)

- 人と話すこと! ヒントをもらえよう!

課題がない場合

- 関心あるところから話題を探す！
 - なにを言えようとするか。なにを伝えようとするか。
講義の資料をもう一回読む、講義で議論されたことを思い出す、普段でちょっとだけでも気になったことなど...
- 「こんにちは」の「は」は、なぜ「わ」ではないのか
→ 日本語の「の」と中国語の「的」の比較

①だれがレポートをよむのか？

③レポートの一番重要なところは？

②かたちも大事？



上手くかけるには
なんかコツないの？

だれがレポートをよむのか？

- **だれに対して報告書を書くかを考えないと面白くかけないのだ！**

文章を書くには、読者が持っている知識に合わせて書く必要がある。

読者が退屈するのは：すでに知っている情報を書く。

難解になるのは：知らない情報を知っているとの前提で書く。

- **実際に読む人は教員である。**

教師の関心の中心は書き手にある。学生が、与えられた課題についてどれだけ学習・調査・研究したか、またそれをどれだけきちんとレポートにまとめたかが、教師の関心事なのである。

考察＝しっかり考えよう

- 先生が最も重視する部分だよ！！

なぜかというと、考察には学生の考えの広さと深さがよくあらわれるからだよ！！

- 全体の目的を踏まえた結果の要約
- 結果に対して、理由の分析
- 事例の説明

事実と意見の区別

- ×村上春樹は日本人が嫌いだった。（←悪い例）
 - ↑指導教員から「何を根拠にこんなことが言えるんや」と聞かれる。
- ○村上春樹は『××』という本の中で、「日本人のこういう点は改善した方がいいと思うのだけれど」と述べている。ここから私は、彼が日本人のことを嫌いだったと考えたい。（←良い例）
 - ↑指導教員から「これでは根拠が足りないんじゃないか」と言われる。

—うちの先生により

これも大事！どんなかたちをつくるの？

- 私、～学部の～という者です。 **表紙or表題**
- このレポートはおおよそこんな感じですよ。 **要旨**
- ～ということでこのレポートを書こうと思いました。
はじめに
- その疑問を持って、こういう論文／本を探して読みましたが、やはりそうでした？異なった？ **先行研究と問題点**
- こんな事実を分かり、結論が得られました。 **考察と結論**

レポートの構成

- 「授業名、課題名、所属学科名、氏名、学生番号、提出年月日」（表紙ページとして独立させることもある）
 - 要旨
 1. はじめに（または「目的」）
 2. 先行研究
 3. 問題点（関心を持っているところ）と考察
 4. 結論（あるいは「考察と結論」）
- 参考文献リスト

参考文献

- 河野哲也 1997 『レポート・論文の書き方入門』 慶応義塾大学出版会株式会社
- 木下是雄 2011 『レポートの組み立て方』 筑摩書房